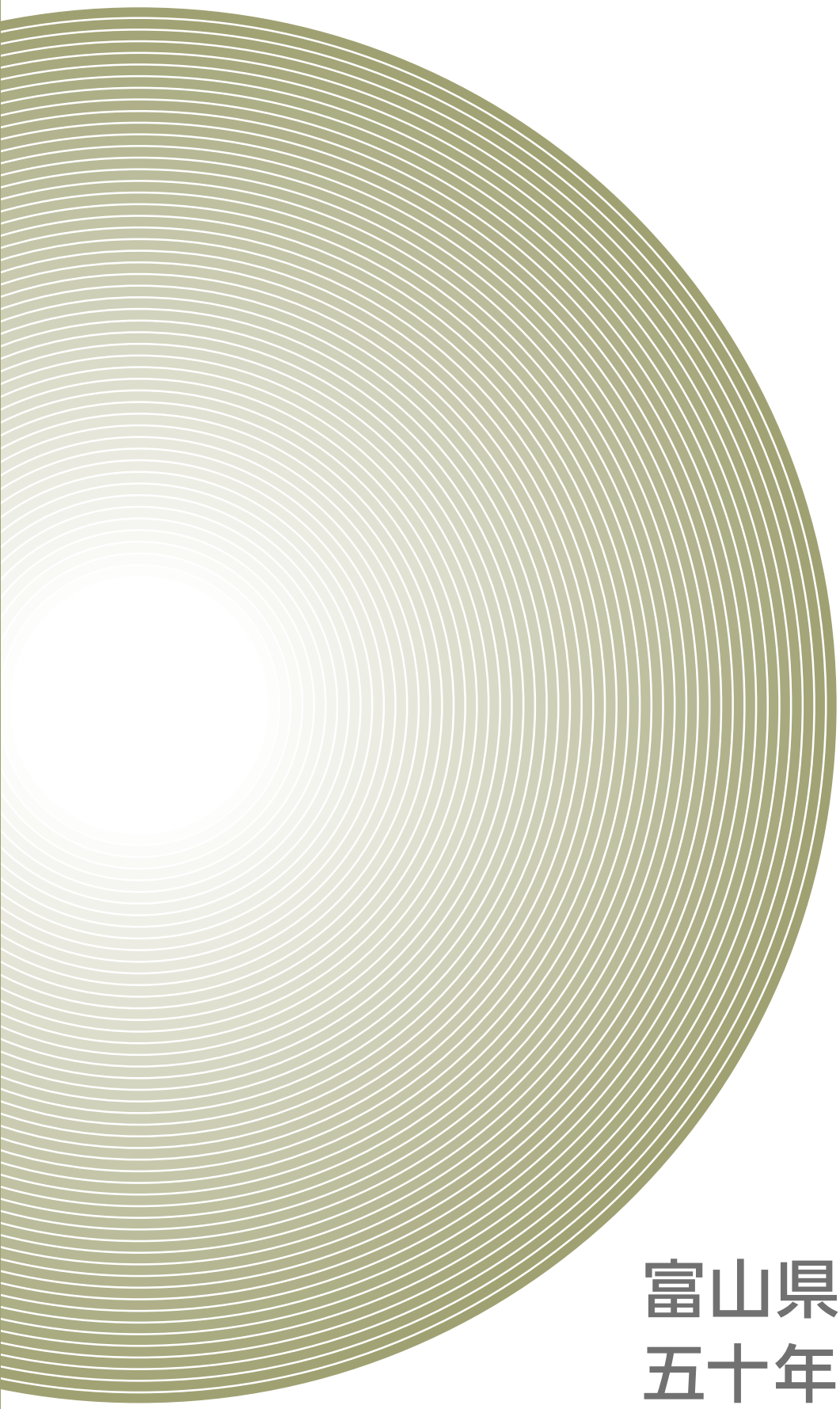


富山県博物館協会
五十年史

1966 - 2015

富山県博物館協会
平成27年3月

富山県博物館協会五十年史

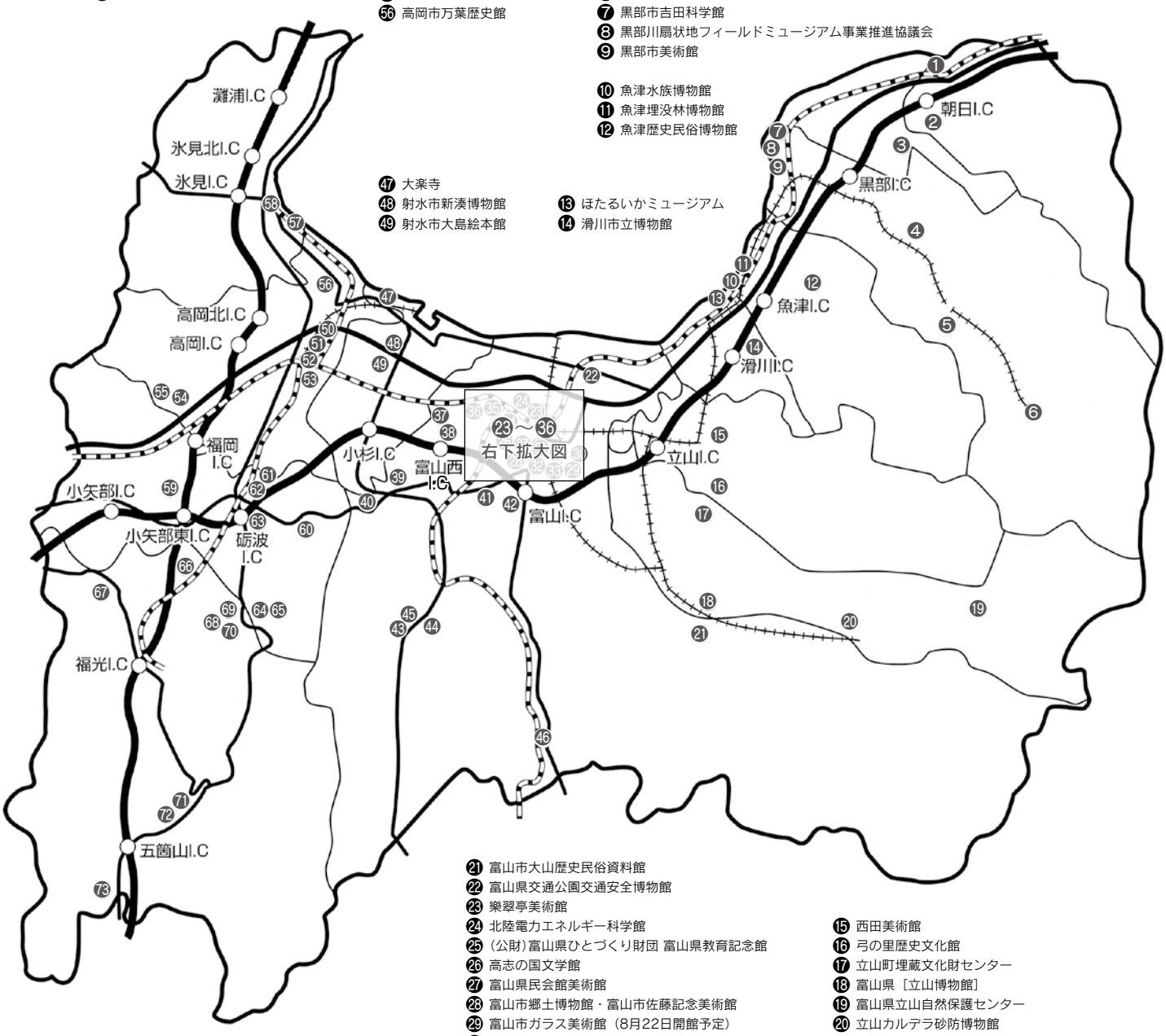
1966-2015

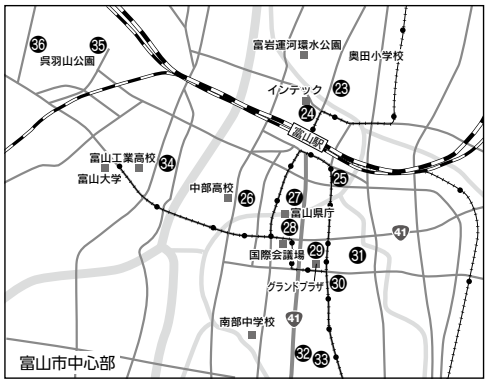
富山県博物館協会

平成27年3月

富山県博物館協会加盟館園案内図

❶ 朝日町立ふるさと美術館
❷ (一財)百河豚美術館
❸ 入善町下山芸術の森 発電所美術館
❹ うなづき友学館（黒部市歴史民俗資料館）
❺ セレネ美術館
❻ 欅平ビジターセンター
❼ 黒部市吉田科学館
❽ 黒部川扇状地フィールドミュージアム事業推進協議会
❾ 黒部市美術館
❿ 魚津水族博物館
⓫ 魚津埋没林博物館
⓬ 魚津歴史民俗博物館
⓭ ほたるいかミュージアム
⓮ 滑川市立博物館
⓯ 西田美術館
⓰ 弓の里歴史文化館
⓱ 立山町埋蔵文化財センター
⓲ 富山県［立山博物館］
⓳ 富山県立山自然保護センター
⓴ 立山カルデラ砂防博物館
㉑ 富山市大山歴史民俗資料館
㉒ 富山県交通公園交通安全博物館
㉓ 樂翠亭美術館
㉔ 北陸電力エネルギー科学館
㉕ (公財)富山県ひとづくり財団 富山県教育記念館
㉖ 高志の国文学館
㉗ 富山県民会館美術館
㉘ 富山市郷土博物館・富山市佐藤記念美術館
㉙ 富山市ガラス美術館（8月22日開館予定）
㉚ 大谷和子こども美術館
㉛ ギャルリ・ミレー
㉜ 富山市科学博物館
㉝ 富山県立近代美術館
㉞ 富山県水墨美術館
㉟ 富山市民俗民芸村
㊱ 富山県埋蔵文化財センター
㊲ 富山ガラス工房
㊳ 富山市ファミリーパーク
㊴ 富山市天文台
㊵ 自然博物園「ねいの里」
㊶ 富山県中央植物園
㊷ 富山県国際健康プラザ 生命科学館
㊸ 富山市八尾曳山展示館
㊹ 富山市八尾おわら資料館
㊺ 桂樹舎和紙文庫
㊻ 富山市猪谷関所館
㊼ 大楽寺
㊽ 射水市新湊博物館
㊾ 射水市大島絵本館
㊿ 高岡市美術館
(51) 富山県立高岡工芸高等学校 青井記念館美術館
(52) 高岡市立博物館
(53) 宗教法人 高岡山瑞龍寺
(54) ミュゼふくおかカメラ館
(55) 高岡市福岡歴史民俗資料館
(56) 高岡市万葉歴史館
(57) 氷見市海浜植物園
(58) 氷見市立博物館
(59) 小矢部市大谷博物館
(60) 宗教法人 千光寺
(61) 砺波市美術館
(62) 砺波市立砺波郷土資料館
(63) となみ散居村ミュージアム
(64) 松村外次郎記念 庄川美術館
(65) 庄川水資料館
(66) 福野文化創造センター ヘリオス
(67) 南砺市立福光美術館
(68) 南砺市埋蔵文化財センター
(69) 井波彫刻総合会館
(70) 井波美術館
(71) 南砺市立相倉民俗館
(72) 民俗資料館 村上家
(73) 宗教法人 行徳寺





五十年史発刊にあたって

富山県博物館協会
会長　雪山行二

今年、富山県博物館協会は設立50年を迎えます。これを機に当協会の活動の歩みを振り返り、そこから学び得たものを今日の活動に生かし、さらに未来に向けての指針の一つになればとの思いから、当協会の会報『とやまミュージアム・アニュアル』第37号を兼ねて、この『50年史』を発行いたします。

現在、当協会の加盟館は73館を数えますが、設立当初はわずか6館でした。そのなかには1913（大正2）年にわが国最初の水族館として開設された魚津水族館のような先駆的な例もあります。しかし一般的には、本県における博物館活動は戦後、それも1951（昭和26）年に博物法が成立したのちに始まったと言えるでしょう。そして日本経済の高度成長のあとを追って、1980～90年代にかけて急速に数を増し、今日に至っています。

富山県の博物館は、単位人口当りとしては全国でも長野県、山梨県に次いで3位を占めています。その内容も多岐にわたり、特に魚津埋没林博物館、入善町下山芸術の森発電所美術館、立山カルデラ砂防博物館、富山県立山博物館、ほたるいかミュージアム、富山ガラス工房、高岡市万葉歴史館、となみ散居村ミュージアムなど、ユニークな博物館が数多く含まれています。

この50年間にわが国における博物館活動は大きく発展してきました。いまや学校教育においても、広く市民生活においても欠かせない存在になり、その影響は社会のなかに深く浸透しています。博物館を取りまく状況も変わり、社会から求められる役割もただ拡大するだけではなく、質的にも変化してきました。

たとえば博物館法によれば、博物館の基本的使命とは、価値ある資料の「収集」、「保存」、「公開」にあります。今でもこれは真理だと私は考えますが、近年、このなかでも「公開」が以前にも増して大きな比重を占めるようになっています。それは資料を公開する機会がふえることを意味するだけではなく、人びとが資料あるいはそれに関する情報に主体的にアクセスすることを意味します。インターネットが急速に発達した今日、人びとは博物館から与えられるものを受容するという受け身の立場から、その資料と情報を積極的に活用することが可能になり、また、それが市民の当然の権利であると考えられるようになってきました。

博物館と利用者の関係は、知識を与えるとか、すでに定まった価値を教えるといった一方的なものから、相互の協力によって新しい価値を生み出すという双方向の関係に、徐々に移りつつあるように思われます。博物館が所有する資料と情報は――究極的にはモノとしての資料の方が重要ですが――人びとの批判的な目にさらされることによって新たな価値を獲得するのです。

また、今日、ボランティアをはじめさまざまなかたちで、市民が博物館の活動に参加するようになっています。社会的責任を自覚した個人、NPO法人、教育機関、企業などとの「協働」なくして博物館の運営は難しくなっています。このように、博物館はいろいろな意味で社会に開かれたものになりつつあります。そして、博物館を核とした幅広い人びとの交流は、その枠をこえて社会全体に浸透していくのではないでしょうか。

阪神淡路大震災から20年、東日本大震災から4年が過ぎました。この2つの災害だけでも数多くの博物館が被災し、膨大な資料が失われました。しかしその一方で、文化財などに対するレスキュー活動も活発に行われるようになりました。そのような状況の下で、博物館の使命とは何か、社会のなかで博物館はいかなる存在なのか、被災者に対して博物館は何ができるのか、等々、私たちは根源的な問いを突きつけられています。

この2つの大災害は、特に地域社会における博物館の役割というものを再認識させました。博物館の活動は地域社会のアイデンティティーを形成する上で、非常に重要な役割を担っています。災害からの復興のなかで、博物館の活動はその地域の人びとの精神的な支えとなっているのです。

富山県にはユニークな博物館が数多く存在し、その土地に根ざした活動を展開しています。このたびの北陸新幹線の開業により首都圏との距離は飛躍的に短縮されましたが、それだけに、それぞれの博物館は「オンリーワン・ミュージアム」を目指して個性豊かな活動を展開しなければならないと思います。

博物館の使命には、変わるものと変わらないものがあります。当協会設立50年に当たり、私たちは先輩たちの多大なご努力とその成果を踏まえ、未来に向けて新しい博物館像を打ち立てていかなければならないと思います。皆様のご協力とご鞭撻をお願い申し上げる次第です。

（富山県立近代美術館館長）

お　祝　い

日本博物館協会
会長　銭谷眞美

昭和41年に富山県博物館協会が加盟6館で創立され、本年で50年を迎え加盟館も73館へと拡充されましたことは、我々博物館関係者にとっても誠におめでたいことと心からお慶び申し上げます。

日本博物館協会調査によると、昭和41年当時の博物館数は全国で777館（但し、神奈川、香川、秋田県の数字が入っておらず、他の数県でも不完全であったと付記されていますが）、うち日本博物館協会加入館は300余でありました。それが、現在、博物館数は文部科学省調査では5,747館と7倍強に増え、当協会加入館は1,200館余へと推移しております。また、富山県は、多くの素晴らしい博物館園を擁し、人口100万人当たり博物館数も全国第3位であるとお聞きしています。

博物館は、歴史や芸術、民俗、産業、自然科学など多岐にわたるテーマについて、資料の調査研究、収集、保管、展示などの事業を通じ、国民が楽しく学びながら、明日を考える糧を手に入れることを願って活動しております。また、日本を訪れる多くの外国人の方が、博物館を利用することで、日本への理解を深めていただければと思っております。

一方で、近年の博物館を取り巻く社会的環境は、厳しさを増すとともに著しく変化しています。こうした状況と運営や活動の変化のなかで、博物館には、生涯学習社会の進展や国民の知的要求に積極的に応えていくことが従来にも増して求められています。

博物館がその本来の目的や機能を果たし、公益性を確保していくためには、関係者がその職務を遂行していく上で拠り所として共有できる行動の指針が求められていることから、当協会では、平成24年7月、「博物館の原則」及び「博物館関係者の行動規範」を制定し、公表致しました

この原則、行動規範は、博物館の組織基準とも言える文部科学省告示「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」と一対をなすものであり、両者を有効に活用することで、より実態的な博物館の在るべき姿の実現に向けて、効果的な成果を上げることが期待できます。

今後、これらの趣旨が浸透し、博物館の公益性と信頼性が向上して全国各地の博物館活動が一層充実・振興していくことを確信し、貴協会におかれても益々ご発展されることを希求して止みません。

富山県博物館協会設立五十年にあたり

富山県知事

石 井 隆 一

このたび、富山県博物館協会が設立50周年を迎えられますことを心からお祝い申しあげます。

貴協会には、昭和41年の設立以来、半世紀の永きにわたり、県内博物館等の相互の連携を図るとともに、展覧会等の情報発信や学芸員の研究活動支援など、活発な活動を続けられ、本県の芸術文化の振興に大きく貢献いただいています。現在では、歴史や民俗、自然、芸術文化など様々な分野の個性あふれる73館園が加盟し、それぞれの特長を活かした収集・研究活動が行われるなど、博物館事業の発展に大きな成果を挙げておられます。

ここに、雪山会長をはじめ歴代役員並びに関係の皆様方の長年にわたるご尽力に、心から敬意を表し、感謝申しあげます。

さて、今日、社会経済情勢が大きく変化するなかで、人と人とのふれあい、ゆとりや生きがいといった心の豊かさが求められるようになり、芸術文化や生涯学習に対する関心は、ますます高まりをみせています。また、現在の我が国は、東日本大震災からの復興をはじめ、経済再生、少子高齢化・人口減少対策など、多くの難しい課題に直面していますが、こうしたときこそ、芸術文化に親しむことで、人々の心、精神を元気に、豊かにすることが大切です。

このため、県では、多くの関係の皆様のご協力をいただきながら、芸術文化の振興を通じた「元気とやま」の創造に全力で取り組んでいるところです。

また、本県では、去る3月14日、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線がついに開業しました。さらなる県外客の増加を見据え、富山に行けば多彩で素晴らしい芸術文化が楽しめると感じていただけるよう、今後とも、首都圏をはじめ全国に向けたPR等に積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

こうしたなか、地域の博物館等においても、施設の特長を活かした魅力ある企画を展開することが重要であり、各施設の活動を支える貴協会の果たす役割は、今後ますます大きくなるものと思われ、貴協会のこれまでの歩みや、本県における博物館の歴史などがまとめられた「富山県博物館協会五十年史」の刊行は、今後の博物館事業を進めるうえで、大変意義深いものがあります。

県では、今後とも、貴協会をはじめ関係団体と連携し、本県の芸術文化の振興に全力を尽くしてまいりますので、皆様方には、このたびの設立50周年を契機として、一層のお力添えを賜りますようお願い申しあげます。

終わりに、富山県博物館協会の限りないご発展と、関係の皆様のますますのご健勝、ご活躍、ご多幸を心からお祈り申しあげます。

富山県博物館協会五十年史

兼　富山県博物館協会会報 第37号（平成26年度）

目　次

五十年史発刊にあたって
富山県博物館協会 会長 雪山 行二

お祝い
日本博物館協会 会長 銭谷 眞美

富山県博物館協会設立五十年にあたり
富山県知事 石井 隆一

富山県博物館協会年表 ―― 7

地域に根差した美術館を目指して ―― 20
高岡市美術館 館長 村上 隆

富山の自然：魚津水族館の役割 ―― 21
魚津水族館 館長 稲村 修

ふるさと教育と博物館活動 ―― 22
富山県［立山博物館］ 館長 高木 三郎

博物館が地域と連携して実践する「地域回想法」について ―― 23
氷見市立博物館 館長 小境 卓治

客の心になりて ―― 24
砺波市美術館 館長 小野田 裕司

富山市科学博物館の役割 ―― 25
富山市科学博物館 館長 上杉 俊男

富山県博物館協会 表彰者 ―― 26

富山県美術館・博物館 研究補助／研修助成 ―― 27

富山県博物館協会規約 ―― 29

加盟館園一覧 ―― 30

事務局だより（平成26年度） ―― 34

加盟館園職員名簿（平成27年度） ―― 35